

はすの
蓮野地区
(新潟県聖籠町)

- 計 画 期 間 平成 21 年度～平成 25 年度
- 面 積 207.2ha
- 交付対象事業費 523.3 百万円
- 町 人 口 14,235 人

ポイント

地域の産業・自然・歴史・文化を活かした、潤いのあるまちづくり

地区概要

自然環境や歴史的景観の保全拠点

目 標

既存公園の拡大と交通アクセスの整備を行い、現在の観光資源と歴史的景観をリンクさせ、地域交流はもちろん地域外交流人口の拡大により、地域の活性化を促進する。

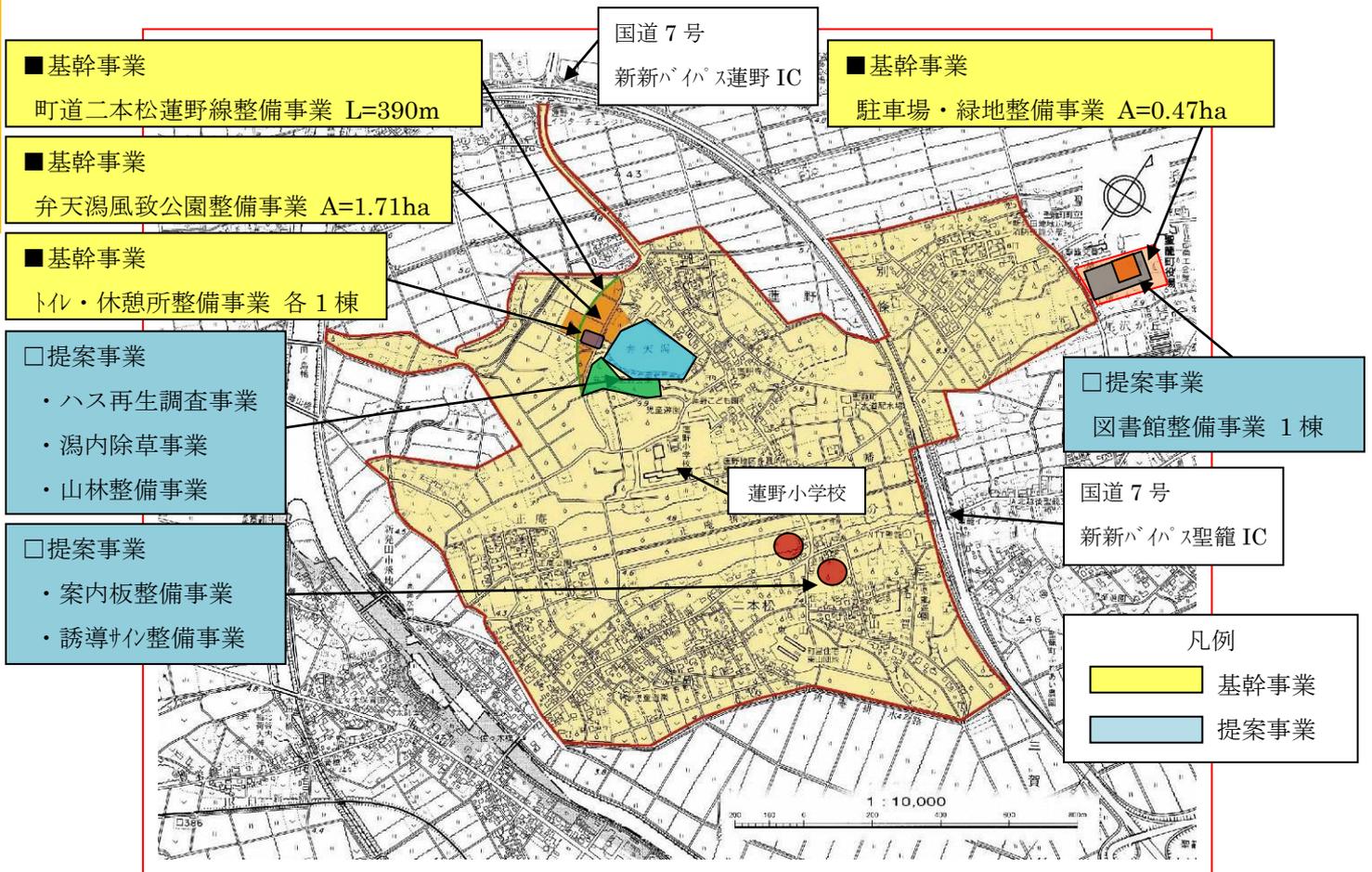
指 標

公園及び交通アクセスの整備により、季節ごとにさまざまなイベントや自然を楽しむとともに、学べるエリアとなることから、来訪者数の増加を目標とした。

弁天湯桜まつり来訪者数	1,500 (H19)	→	2,000 (H25)
観光農園の来訪者数	36,500 (H19)	→	40,000 (H25)
二宮邸・蓮のギャラリー来訪者数	1,419 (H19)	→	1,800 (H25)
図書館利用者数	30,481 (H23)	→	31,000 (H25)

事業内容

基幹事業 (377.8 百万円) → 公園新規造成 (17,100 m²)、道路築造 (L=390m W=10.0m)、トイレ・休憩所建築 (各 1 棟)、駐車場整備 (4,740 m²)、緑地整備 (600 m²)
 提案事業 (145.5 百万円) → 案内板・サイン設置、ハス再生調査等、図書館整備 (1 棟)



地区の現況と課題

個を集めて網を形成

弁天潟では春の桜まつりと冬の白鳥、観光農園では初夏のサクランボと秋のブドウ、ギャラリーでは春から秋の作品展示というように、個々での体験やイベントはそれぞれ行われている。

しかしながら、それ以外の時に「訪れてみたい」と思わせる核がない。そこで既存の公園を拡張し、多くの人が集う交流拠点とし、あわせてアクセス道路を築造して周辺施設をリンクさせることにより、魅力と活力のあるまちづくりを推進させることが課題となっている。

提案事業の特徴

案内板・サイン設置事業

各施設への誘導をスムーズに行いつつも、自然景観を損なうことのない案内板やサインを、計画区域に設置する。

散策マップ作成事業

町、観光協会、JA、生産者、教育委員会など、歴史・自然・観光資源管理者により散策マップを作成し、既存の資源のPRと新たな資源の発掘を行う。

図書館整備事業

図書館に所蔵している歴史・郷土資料・産業資料を活用し、サインだけでは伝えることのできない情報や魅力を紹介するための行政資料コーナーを整備する。

ハス再生調査事業等

公園内の弁天潟において、減少傾向にある自生するハスの再生化に向けて土壌調査等、風致公園として景観整備を行う。

計画策定プロセス

私たちが「弁天潟公園」の設計者

公園に隣接する蓮野小学校の3年生は、弁天潟を「自然学習の場」として位置づけ、総合学習の中に取り入れている。水質浄化のため夏にはハス刈りを、冬は野鳥観察の場として弁天潟を見守っている。そんな中、平成20年度の「公園整備実施設計」では「子どもたちから高齢者まで」「自然がいっぱい」「生き物にもやさしい」をテーマに5回のワークショップを開催し、子どもたちがたくさんの夢を描いてくれ、思いがギッシリつまった設計図が完成した。



整備前



整備後



整備前



整備後

弁天潟風致公園および町道整備

図書館および駐車場整備



春の弁天潟



案内板の整備



散策マップの作成



児童による「ゆめの弁天潟」発表会